

遼摩高校アンバサダー事業

5月29日の本校ホームページのイベント情報に「令和2年度 遼摩高校アンバサダー（出前授業について）」という情報が掲載されています。これは、「本校の学習内容の一部を体験することを通して、中学生に遼摩高校及び総合学科の教育の特色を理解してもらう。」という目的で数年前から実施している取り組みのようです。昨年度は、ビジネスマナー講座や介護体験講座に依頼があり、関係する系列の生徒たちが、要望のあった中学校に出向いて出前授業を行いました。

昨年4月に本校に赴任した当初、アンバサダーという言葉が分かりにくく、何のことなのかと思ったものでした。調べてみると大使（外交官）、代表などといった意味があり、ビジネス用語で「自社のブランドの認知向上に代表的な役割を担う人」とあります。本来は出前事業という行事やイベントのことをいうのではなく、出前授業で本校や総合学科系列の認知向上に代表として参加している“人”をアンバサダーと呼ぶということでしょうか。

6月9日（火）から中学校での進路説明会が始まります。依頼があった中学校に行き、ここで遼摩高校の説明を15～20分で行うのですが、昨年度はこれまで管理職が中心となって説明を行っていたやり方を変更し、教員がアンバサダーとして行うようにしました。複数の教員で分担して各中学校に出かけるといったやり方です。実際に授業や実習を行う教員の思いや、教育や遼摩高校にかける情熱を分かち合いたいという思いからこのようにしました。これを今年さらには改善・進化させ、教員は引率者として参加し、アンバサダーを生徒にすることとしました。「遼摩高ブランドの認知向上に代表的な役割を担う人」を代表生徒としたということです。派遣する生徒にとっては、相手が聞きたいことを自分の言葉や身体などを用いて表現する場面を通して会話力や表現力の向上を目指しています。

本校の学習は、基礎的・基本的な知識や技能を習得し、その活用を図るような学習活動を重視していますが、同時に思考力・判断力・表現力等を育む観点から、体験から感じ取ったことを表現したり、事実を正確に理解し伝達するなどの言語活動の充実にも力を入れています。各中学校に2名の生徒が出かけて、本校での学習や体験を通して感じたことや、中学生に伝えたいこと等を表現してくれるはずで

入学式等の式典の生徒による進行、アンバサダー事業等「生徒を前面に出す」という取り組みも本校の特徴の一つなのでしょう。



昨年度のアンバサダー事業の様子

